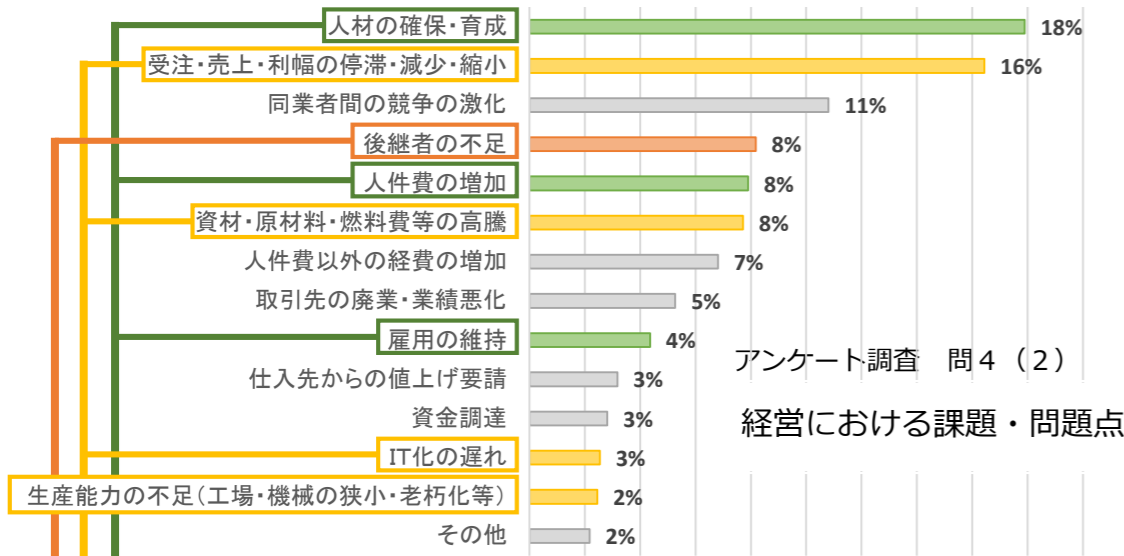


次期 佐倉市産業振興ビジョンの策定に向けた現状と課題の整理 (商工業)

佐倉市の商工業を
取り巻く現状

取り組むべき課題

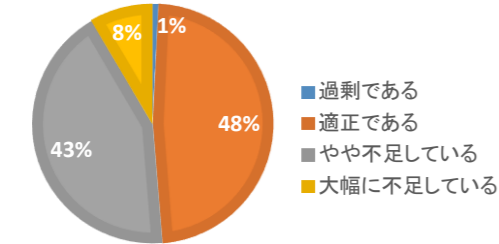


1 雇用に関する現状

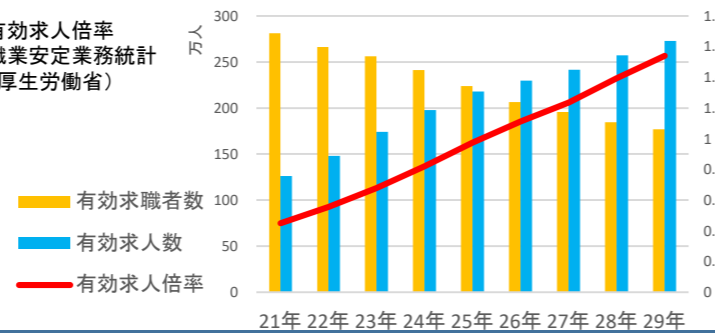
アンケートによると従業員が不足していると答えた事業者の割合が適正であると答えた割合を上回っている。また、全国の有効求人倍率は平成21年度から一貫して上昇しており、人手不足が続いている。

深刻な人手不足

アンケート調査 問8(1) 既事業所における従業員の過不足の状況について



有効求人倍率
職業安定業務統計
(厚生労働省)



意見交換会等での主な意見

- ・募集をかけても応募が来ない。
- ・経験者や専門的な技術をもった人材が集まらない。
- ・売り手市場で、すぐに辞めてしまう。
- ・パートや非正規社員で補わざるを得ない。
- ・外国人労働者に頼る方向で進んでいる。

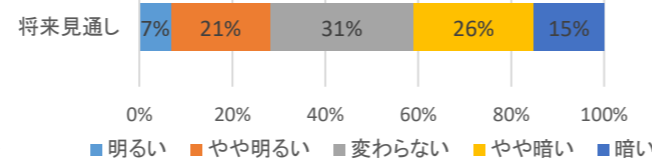
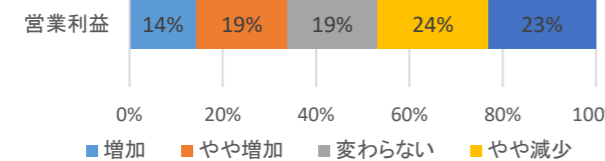
- 新卒等の若年層の採用難
- 採用した人を定着させるのが困難
- 多様な人材の確保が進んでいない (ex.高齢者、女性、障害者、外国人)
- 多様な働き方に制度が対応できていない (ex.テレワーク、フリーランス)

2 生産性等に関する現状

アンケートによると、営業利益は減少が増加を上回っており、経営の将来見通しも暗いが増えている。情報化に関しては、62%の回答者が知識・情報、人材、資金のいずれかが不足している。

稼ぐ力の停滞

アンケート調査 問3 経営状況について



意見交換会等での主な意見

- ・働き方改革を生産性向上に繋げることが求められているが、コストの兼ね合いもあり難しい。
- ・昔は見て覚えろと言っていたが、今は手取り足取りの指導が必要
- ・渋滞の緩和なども企業にとっては生産性向上になる。
- ・IT導入で楽になった。基本的なところから始めるといい。
- ・IT化により、人がいなくなるのも善し悪しがある。
- ・PCスキルを持った人材を雇う際の支援が欲しい。
- ・IT関係は若者が敬遠する職種になっている。

- 設備の老朽化による相対的な生産能力の低下
- 熟練労働者の高齢化に伴う技術移転が困難
- 業務マニュアルの見直しを行っていない
- 販路が固定しており拡大が進んでいない

先端技術導入への取組の遅れ

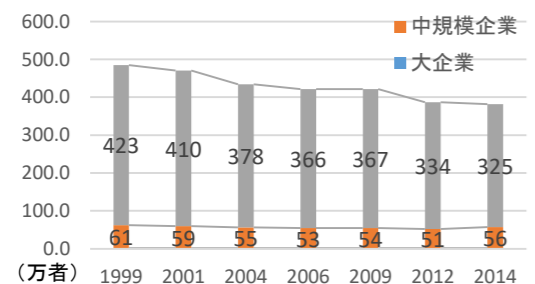
- 先端技術に対応できる人材の育成または確保が進んでいない
- 先端技術を取り入れるための資金が不足している
- 情報通信技術を活用することの有効性が理解できていない

3 事業者数に関する現状

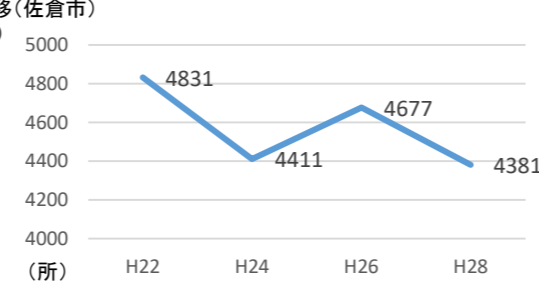
国のデータによると企業数及び事業者数ともに減少しており、産業の担い手が減ってきている。

事業者数の減少

企業規模別企業数の推移(国全体)
(企業統計、経済センサス)



事業者数の推移(佐倉市)
(経済センサス)



意見交換会等での主な意見

- ・現状のままでは、12年後に商店街が成り立っているか疑問。
- ・店を閉じる直前では対応が難しい。早めに課題を見つけて、対応していくことが大事。
- ・その仕事を好きで、得意な人をマッチングすればよい。
- ・事業の可能性が感じられないと事業を継ぎたいと思えない。

- 事業承継が進んでいない
- 創業者を数多く生み出すための環境整備が不十分
- 用地不足等により、新規の企業誘致が困難
- 周辺環境の変化に伴い、既存市内企業が市外へ流出する恐れがある

次期 佐倉市産業振興ビジョンの策定に向けた現状と課題の整理 (観光)

観光を取り巻く現状と課題

1 恵まれた立地条件

- ・成熟したマーケット
(八千代市・印西市・千葉市・四街道市・八街市・酒々井町・成田市・富里市・栄町)
⇒人口約164万人
- ・都心からの良好なアクセス
⇒自動車・電車で約60分
- ・成田空港に近接
⇒自車・電車で約20分

意見交換会での主な意見

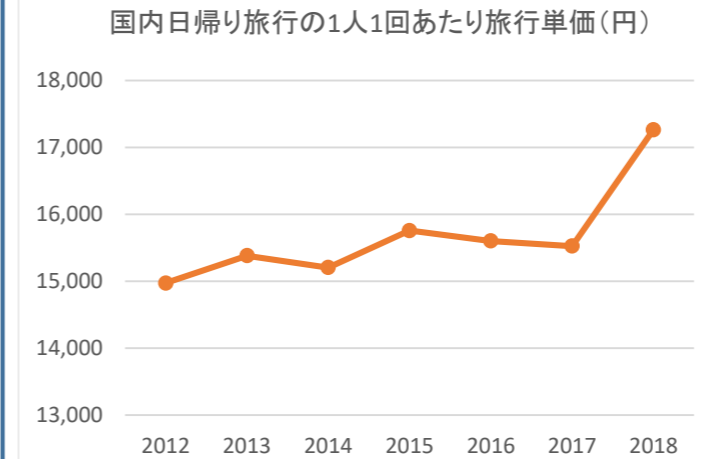
- ・志津、ユーカリ方面をターゲット◎。上り方面に目がいきがちで、佐倉のことを知らない人が多い。
- ・都心をターゲット◎。都心で働く千葉県民も多い為、それを狙うのも良い。
- ・2020年に向けて外国人観光客が増える為、取り込むことが必要。中国人はこの先も増加する。
- ・外国人は個人旅行が増加する。個人旅行は電車やバスを利用する。佐倉にとってはプラス要因。

ターゲットの絞り込みが必要

2 低い地域経済循環率

| 自治体 | 佐倉市 | 千葉県 |
|------------|------|------|
| 地域経済循環率(%) | 64.5 | 83.6 |

資料:リーサス2013



意見交換会での主な意見

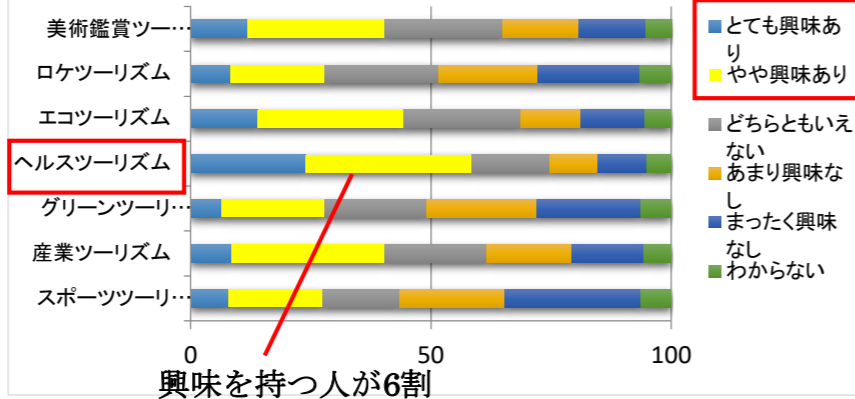
- ・成田に多くのホテルができた為、外国人観光客の予約は減少傾向。成田に泊まれないと次は佐倉。佐倉の次は千葉まで宿泊場所が無い。
- ・古民家の活用を面で行う必要がある。活用すれば近隣市から人が来る。飲食店が一番の近道ではないか(レストラン、BBQ等)。
- ・コト消費への対応が必要(芋掘り等の農業体験、着物・侍体験◎)。
- ・1週間滞在するビジネス目的の外国人がいる。飲食や体験等があれば、休日は佐倉で遊んでくれる。
- ・少々高くても地元産の商品(土産品)が売れる。肉や野菜があれば地元の飲食店で使える。商品開発や既存商品に対する支援が必要。
- ・土産品を売れるような観光拠点や団体客を受け入れられる飲食店が必要(道の駅等の消費場所)。

市民の観光消費促進も必要

3 ニューツーリズムの進展



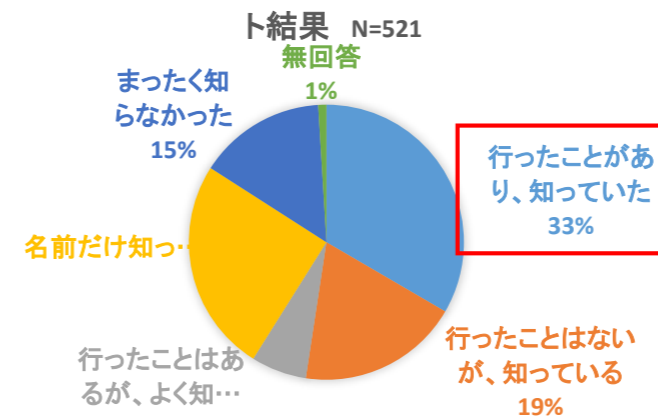
ニューツーリズムに対する関心度 (n=3000)



新たな観光志向の取り組みが必要

4 低い市外からの認知度

KITTE及びスカイツリーにおけるアンケート結果 N=521

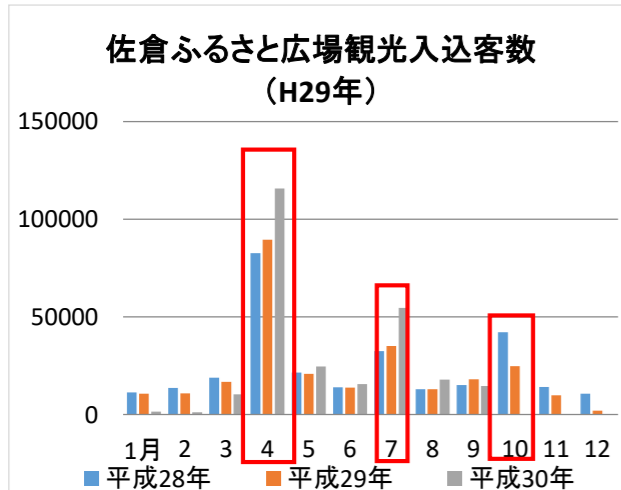


意見交換会での主な意見

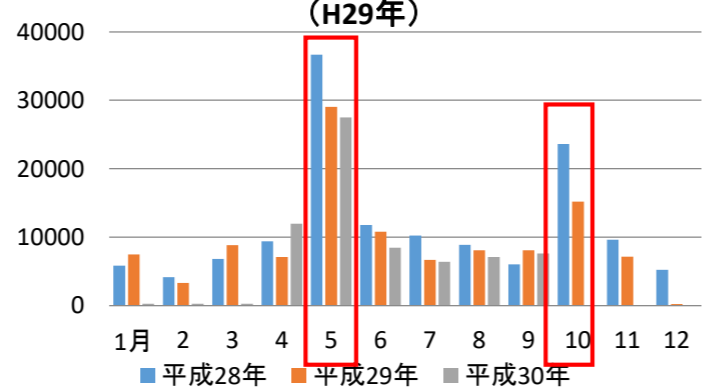
- ・ポスターやチラシの配布先が偏っている。市外、県外、市内の店舗への配布も必要。
- ・飲食店を含めた佐倉市全体の観光マップが必要。
- ・観光に特化したHPが必要(外国語対応、飲食店の掲載等)
- ・海外からのお客様はSNSを見て来ている。
- ・女性と子供は情報が早い。今はSNSとカーナビの影響で女性が一人で来れることもできる。

認知度の向上が必要

5 繁閑の差が激しい観光施設



佐倉草ぶえの丘観光入込客数 (H29年)



閑散期における集客が必要

6 関係機関との連携不足

意見交換会での主な意見

- ・市役所の中でも意見がバラバラ。まずは庁内で整理した方が良い。
- ・様々なマップがあってわかりづらい。各課で連携とれているのか。
- ・イベント等において市、観光協会、商工会議所で連携を密にしてほしい。

- ・鉄道やバス等の交通事業者との連携が必要(誘客の取り組み、回遊性・利便性の向上等)。

- ・おもてなしが不足。お客様に楽しんでもらおうという視点が欠けている(お店の開店日、イベントの日程がわかりづらい。イベント時は、ごみ箱がない、休憩所が暗い、トイレがわからない等)。

関係機関との連携強化が必要

次期 佐倉市産業振興ビジョンの策定に向けた現状と課題の整理（農業）

佐倉市農業を取り巻く「現状」

佐倉市全体

首都圏と空港の中間に位置
都市と農村が混在（多様）

主要産業は製造業、卸売業、小
売業、建設業
（農業の位置は低いが地域には重要）

人口減少、
少子高齢化が想定

地域経済循環率が低い
（自立してない、不安定、他に流出）
市64.5%、県83.6%

佐倉市の農業

新規就農者を積極的に受け入れ
2006～2018年度に45人

担い手の高齢化
農業経営者の平均年齢
2005年62歳
2015年66歳（6%増）

人

担い手不足
基幹的農業従事者数
2010年1,314人
2015年1,090人（▲17%）

零細構造
2015年販売金額100万円未満
市65%、県48%、全国59%

耕作放棄地の拡大
2012年166ha
2017年227ha（37%増）

農地

担い手への農地集積率が低い
2017年度 市19.9%、県23%、
全国55.2%

水利が良い、温暖な気候
（近年は予測不能な天候も）

多様に展開
（水稲、畑作、野菜、果樹、
花、畜産、有機農業など）

農業算出額は増加傾向
2014年53億円
2016年59億円（10%増）

その他

法人化率が低い
2015年 市1.31%、県1.65%
全国1.97%

鳥獣被害拡大の予兆
イノシシ目撃被害通報（農業関係）
2017年度0件、2018年度37件

米政策の変更
（農家自身が主体的に需要に応じた生
産販売する必要性）

「問題」（ネガティブな要素）

「あるべき姿」を「地域の持続可能な発展」とした場合の問題（「現状」と「あるべき姿」とのギャップ）

- 人口減少
- 少子高齢化
- 地域経済循環率が低い
- 担い手の高齢化
- 担い手不足
- 零細構造
- 耕作放棄地拡大
- 担い手への農地集積率が低い
- 法人化率が低い
- 鳥獣被害拡大の予兆

佐倉市農業の衰退

地域の衰退

座談会等での主な意見

| | |
|-----|------------------------------|
| 人 | 「人材育成が重要」 |
| | 「人生100年時代を見据えた人間力の形成が重要」 |
| | 「農業はもうからない。子に継がせられない」 |
| | 「新規就農はマッチングが重要」 |
| 農地 | 「何よりもまずはほ場整備が重要。農家の舞台を整えること」 |
| | 「ほ場が整わないとスマート農業にもつながらない」 |
| | 「地代が高い」 |
| その他 | 「佐倉市の農業は多様。その総合力を活かしていければ」 |
| | 「協力するベースがあるから良い競争ができるのでは」 |
| | 「競争と協力はバランスが重要」 |
| | 「出口（売先）が重要」「佐倉市には売り場が少ない」 |
| | 「輸出はやっていかないとならない」 |
| | 「佐倉といえばこれだという特産物がほしい」 |
| | 「都市部から人を呼ぶ必要」 |
| | 「地域、地域で思いが違う」 |

取り組むべき「課題」（ポジティブな意思）

＜考え方＞

- 地域にとって農業は重要
※ 農業が持つ多面的機能（自然環境保全、景観形成、災害防止、文化伝承、水源涵養など）
- 「あるべき姿」のためには、競争力を強化するだけでは不十分。協力しあえる社会を形成することも必要。
- 佐倉市の強みは「多様性」
- 6次化（消費者需要喚起）や耕畜連携（お金や物の循環）など農業を振興することにより、地域循環率を高めることが可能。

＜方向性＞

問題を克服し、あるべき姿（地域の持続可能な発展）に近づけるために、

- ・ 「競争と協力」のバランスに配慮
- ・ 「多様性」に配慮

して佐倉市農業の発展に取り組む。

＜基本戦略＞

- 競争力強化（産業政策）
 - ・ スマート農業（AI・ロボット等）推進
 - ・ 基盤整備、中間管理活用促進
 - ・ 第三者認証推進
 - ・ 輸出拡大
 - ・ 6次産業化 など
- 協力社会形成（社会政策）
 - ・ 集落活動支援
 - ・ 都市農村交流促進
 - ・ 耕畜連携推進
 - ・ 農福連携推進
 - ・ 鳥獣被害対策 など

- ⇒ 地域経済を循環（安定化）させつつ発展
多様性の維持促進
- ⇒ 経済的安定と多様性により常にイノベーションが発生しやすい土台を形成
- ⇒ 地域の持続可能な発展（あるべき姿）

※ 2019.3.14時点。今後取りまとめるアンケート結果によりさらに分析する予定。